

注意喚起：風疹流行の兆し
ワクチン接種の勧め

2013 年 2 月
中部保健所

昨年春以降全国で流行した風疹が、今年も関東を中心に昨年以上に流行しています。県内でも今年 1 月以降 2 例の成人男性の風疹の届出があることから、症状がはっきりせず報告されないものも含めて、流行は続いているものと思われます。昨今の流行の中心は成人男性です。

風疹は妊娠初期の女性がかかると、先天性風疹症候群（心疾患、難聴、白内障など）を持った赤ちゃんが生まれる可能性があります。



風疹は、感染から 2～3 週間してから、発熱と発疹、リンパ節腫脹などを発症しますが、症状が現れないこともあります。症状が出現する前後 1 週間ほどの間に、主に咳やくしゃみのしぶきで周りの人に感染させる可能性があります。

予防には、2 回の予防接種が確実です。予防接種を受けられない人は、人ごみや発熱・発疹のある人との接触を避けたり、手洗いの励行などが勧められます。

- ▼ 1 歳と小学校入学前 1 年以内の子どもは、定期の麻疹・風疹予防接種が無料で受けられますので、まだの子どもさんは、ぜひ、近いうちに接種を済ませてください。
- ▼ 小学生から 22 歳以下の方は、これまでに定期予防接種として麻疹・風疹ワクチンを 2 回接種する機会がありましたが、2 回の接種を終えていない方は、ぜひ、近いうちにワクチン接種を済ませるようお願いします。
- ▼ 妊娠する可能性のある女性は、風疹のワクチン接種（麻疹に罹ったことがはっきりせず、ワクチン接種も 1 回以下の方は、麻疹・風疹ワクチンが望ましい）をお勧めします。知らない間に妊娠し、症状が無くても風疹にかかってしまうと、赤ちゃんが先天性風疹症候群を持つ可能性が高くなります。
- ▼ 成人男性は、風疹抗体を持っていない人の割合が比較的高く、風疹が流行すると感染して、周りにいる女性や妊娠可能な女性に感染させてしまう可能性があります。同居家族や職場、お付き合いのある範囲で妊娠可能な女性がいます方は、ぜひ、予防接種を受けるようお願いいたします。
- ▼ すでに妊娠している方は、ご自身の風疹抗体価を妊婦検診で確認し、低い場合（HI 価 16 以下）は、同居家族（子どもや夫など）にワクチン接種してもらうこと、ご自身はお産直後にワクチン接種することをお勧めします。妊娠中は、風疹ワクチン接種は受けられません。

